

黙示録15章3-4節 「正しく、聖なる神」

1A 偉大で、驚くべきわざ

1B 創造のわざ

2B さばき

3B 贖い

2A 正しく、真実な方

1B 公正なさばき

1C 理解を超えた道

2C 信仰による義

2B 必ず報いる方

3A 聖なる方

1B 別たれた方

1C 被造物から

2C 聖別

2B 聖なる火

1C 異なる火

2C 不純物や汚れの清め

本文

黙示録 15 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、14 章まで来ました。今日の午後礼拝で、15 章全体を一節ずつ見ていきます。今朝は、3-4 節に注目します。「³ 彼らは神のしもべモーセの歌と子羊の歌を歌った。「主よ、全能者なる神よ。あなたのみわざは偉大で、驚くべきものです。諸国の民の王よ。あなたの道は正しく真実です。⁴ 主よ、あなたを恐れず、御名をあげない者がいるでしょうか。あなただけが聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。あなたの正しいさばきが 明らかにされたからです。」

黙示録において魅力的なのは、それが賛美や礼拝の姿を見ることができることです。教会における賛美や礼拝ではなく、主の御座がある天における賛美や礼拝です。私たち、地上に置かれている教会は、キリストにあって天にある霊的祝福を受けている者たちです(エペソ 1:3)。地上にはいますが、天にある礼拝賛美につながっています。

私たちは、獣の国において、その像を拝まず、また獣の数字の刻印を受けなかった者たちは、殺されることを見ました。けれども、その彼らが今、天の御座のそばにいて、この歌を歌っています。主がこれから、最後の災いを下されます。その災いにある神のお姿を歌っているのです。それ

は、正しい方だということです。この賛美が、この後も続きます。16章で、御使いが歌っています。「16:5 今おられ、昔おられた聖なる方、あなたは正しい方です。このようなさばきを行われたからです。」そして、19章、バビロンが倒れた後に、天において大歓声がありました。「19:1b-2 ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。神のさばきは真実で正しいからである。」このようにして、主が正しい方であること。また聖なる方であることを、高らかに歌っているのです。

なぜ、神が災いを下すのか？人々は、いろいろ考えますね。2014年に、「ノア」という映画が上映されました。ラッセル・クロウがノア役を演じたそうです。けれども、聖書を信じるキリスト者たちは、聖書の記述とは異なるとして批判していました。こんなものだそうです。「この映画では、神が人格のない、人間からは遠い存在で、冷酷で、復讐心が強い者として描かれている¹」とのこと。これが、人間のする歪曲で、裁きを下す時の神を、このように見えています。災いを下す時、人の痛み悲しみ、尊厳を知らない無慈悲な存在が、怒り狂って下しているにしかすぎない、と。

しかし、聖書ははっきりと、人々が悪に傾き、悪をやりたい放題にして、ご自身が自分に似せて造られた者たちが、こうなってしまうのに心を痛めていると言われています。そして、ノアに箱舟を造らせ、ノアも義について人々に説き明かしていたことが、ペテロの第一の手紙に書かれています。そこで、天にいる人々や御使いの賛美や礼拝のことばから、神がどのような方なのかをじっくりと見ていきたいと思えます。

1A 偉大で、驚くべきわざ

彼らは初めに、「**あなたのみわざは偉大で、驚くべきものです。**」と言っています。

1B 創造のわざ

そうです、黙示録では、主が、「**天と地と海と水の源を想像した方(14:7)**」と紹介されています。創造の働きにおいて、主のみわざの偉大さ、驚くべきことを私たちは見ます。詩篇を読めば、数多く、主のみわざの偉大さ、驚くべきことを歌っています。私たちも、これは体感で分かっています。自然災害について、例えば、津波など、こんな力とエネルギーがどこから出てくるのかと思えますね。普段は絶対に目にしない、けた外れの力です。そこに畏怖を抱きます。神の力と永遠のご性質が、被造物に明らかにされているとロマ1章で言っているとおりです。

そして、雷。雷が落ちる時は、あの威力はとてつもなく大きいです。すべての人がどこかに隠れます。人々は、日常では、だれかが他の人を見下したり、高ぶり、または卑下して、周りの目を気にしたり、いろんなことをしていますが、雷が落ちれば、そうした上下関係や人々の間にある壁など、ふっとんでしまいます。全く同じように、みながどこかに隠れるのです。そこで、自分たちにはどうすることもできないとして、畏怖を抱きます。ここに神の栄光が現れているのです。

¹ <https://lifehopeandtruth.com/prophecy/blog/3-myths-in-the-noah-movie>

詩篇 29 篇には、雷は主の声であると歌っています。長くなりますが、読んでみましょう。

- 1 力ある者の子らよ。主に帰せよ。
栄光と力を主に帰せよ。
- 2 御名の栄光を主に帰せよ。
聖なる装いをして主にひれ伏せ。
- 3 主の声は水の上にある
栄光の神は雷鳴をとどろかせる。
主は大水の上におられる。
- 4 主の声は力強く
主の声は威厳がある。
- 5 主の声は 杉の木を引き裂き
主は レバノンの杉を打ち砕く。
- 6 それらの木々を子牛のように
レバノンとシルヨンを
若い野牛のように 跳ねさせる。
- 7 主の声は 炎の穂先をひらめかせる。
- 8 主の声は 荒野を揺さぶり
主は カデシュの荒野を揺さぶる。
- 9 主の声は 雌鹿をもたえさせ
大森林を裸にする。
主の宮では すべてのものが「栄光」と言う。
- 10 主は 大洪水の前から 御座に着いておられる。
主は とこしえに 王座に着いておられる。
- 11 主は ご自分の民に力をお与えになる。
主は ご自分の民を 平安をもって祝福される。²

雷など、大きな力とエネルギーが発出される自然現象を見ますと、私たちは、そこに主がおられ、実は、天の王座に神がとこしえに治めていらっしゃることに気づくのです。

2B さばき

それで、主は、世の終わりに、天からの災いをもって、地上にご自分の栄光を現されます。神は今、恵みの中で、ご自分の偉大な力を現しておられます。日光などは、その典型です。このような恵みをもって、天と地を造られた方がおられることを示しておられるのです。イエスが、弟子たちに

² 新改訳 2017 聖書 (Ps 29:1-11). (n.d.).

敵を愛しなさいと言われた時に、天の父がそうだからだと言われました。「マタ 5:45 天におられるあなたがたの父の子どもになるためです。父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。」ですから、私たちが悪い人にも、恵みを持って接する時に、悪人にも太陽を上らせ、雨を降らせてくださる父の栄光を、反映させているのです。例えば、死刑囚や凶悪犯の人たちに働きかけをしている多くが、クリスチャンです。

そんなの当たり前だろ！と多くの人は言うかもしれません。太陽の光線が、悪者だけに当たらないようにするのか！と怒鳴る人がいるかもしれません。いいえ、だからこそ神は、大いなる力と偉大さをもって裁きを行われるのです。エジプトに対する災いを思い出してください。第九の災いは、闇でした。「出 10:22-23 モーセが天に向けて手を伸ばすと、エジプト全土は三日間、真っ暗闇となった。人々は三日間、互いに見ることも、自分のいる場所から立つこともできなかった。しかし、イスラエルの子らのすべてには、住んでいる所に光があった。」主は、敢えてすべての人に太陽の光を与えておられるのであって、それをやめることは、一瞬のうちにできるのです。イスラエルの子らのすべてには、住んでいるところに光があったのです。

そこで、その恩恵を受けているのに全く高慢になり、その神と天に住む者たちを罵っている獣の国に対して、主の災いは太陽の光線を抑えていたのをやめ、そのまま熱線にすること。そして、真っ暗にすること、このどちらも行われます。「16:8-11 第四の御使いが鉢の中身を太陽に注いだ。すると、太陽は人々を火で焼くことを許された。9 こうして人々は激しい炎熱で焼かれ、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名を冒瀆した。彼らが悔い改めて神に栄光を帰することはなかった。10 第五の御使いが鉢の中身を獣の座に注いだ。すると、獣の王国は闇におおわれ、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。11 そして、その苦しみと腫れもののゆえに天の神を冒瀆し、自分の行いを悔い改めようとしなかった。」

これが、主がご自分の偉大な力、驚くべきわざです。彼らが、神がおられることを知ってほしいので、このように当たり前だと思っていることは、実は神が敢えてそうされているのだということに気づかせるために、自然の恩恵の一部を取り除かれるのです。

3B 贖い

しかしもっと驚くことは、主は、これほど驚くべき、大いなる力を持っておられるのに、弱い者や貧しい人に心を留め、その弱き者たちに御力を働かせることです。それが、私たちが交読文で読んだ、詩篇 113 篇です。ここを改めて、全文読んでみましょう。

1 ハレルヤ。

主のしもべたちよ ほめたたえよ。

主の御名をほめたたえよ。

- 2 今よりとこしえまで
主の御名がほめられるように。
- 3 日の昇るところから沈むところまで
主の御名がほめたたえられるように。
- 4 主はすべての国々の上に高くおられ
その栄光は天の上にある。

ここで見る通り、主はすべての国の上に高くおられるほど、偉大な方です。天の上にあります。しかし、次を見てください。

- 5 だれが 私たちの神 主のようであろうか。
主は高い御位に座し
- 6 身を低くして
天と地をご覧になる。
- 7 主は弱い者をちりから起こし
貧しい人をあくたから引き上げ
- 8 彼らを 高貴な人々とともに
御民の高貴な人々とともに 座に着かせられる。
- 9 主は 子のいない女を
子を持って喜ぶ母とし
家に住まわせてくださる。ハレルヤ。³

弱い者、貧しい人に目を留めてくださるのです。ご自身の全能の力を、弱くされている者、貧しい者に働かせて、そのような低められたところにいるのに、神の民の座に着かせてくださいます。ですから、子がいないような不幸である時でさえ、子を持って、家に住むような豊かさを与えることができるのです。主が、「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものです。(マタイ 5:3)」と言われた時、それは大いなることで、心貧しい者が、神の御国の座に着くまでされます。弱いのに、「強い」と告白することができます。

主は、力強い御手によって、高ぶる者を低くし、そして低められている者たち、虐げられている者たちを贖い出されます。ファラオが低められ、奴隷になっていたイスラエルの子らを贖い出されたのです。そして私たちは、同じように、サタン of 支配から贖い出されて、御子のもととされました。「コロ 1:13-14 御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。」

³ 新改訳 2017 聖書 (Ps 113:1-9). (n.d.).

2A 正しく、真実な方

次に、「**あなたの道は正しく真実です**」と歌っています。

1B 公正なさばき

主が、さばきにおいて公正であることを歌っています。このことは、獣を拝まなかったため、殺された彼らにとっては、切実なことです。正しいことをしているのに、それに全く見合うことのない、死というひどい仕打ちを受けているからです。しかし、天において、確かに主が、獣の国をさばいてくださることを知って、それで「**あなたの道は正しく真実です**」と歌っています。

1C 理解を超えた道

私たちはここで悩みます。どうしても、神の正しさが見えないのです。けれども、主はイザヤを通して、こう言われました。「55:8-9 「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。——【主】のことば—— 天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。」私たちの思いよりも、はるか高いところに、神の思いがありますから、それで、神の正しさが見えないことが多いのです。

2C 信仰による義

そこで必要なのは、信仰です。義人は、信仰によって生きるという有名な言葉は、預言者ハバククによるものですね。ハバククが、ユダ王国では、罪や不法がはびこっているけれども、なぜ裁かないのですかと主に訴えています。そこで主は、確かに裁くと答えられますが、なんと、よりによって、バビロンをその裁きの器にすることを語られるのです。ユダは悪いですが、バビロンはけた外れに悪いことをしています。その、はるかに悪いバビロンを、ユダの罪を裁くために用いるのですかと訴えているのです。「1:13 あなたの目には、悪を見るのはあまるにもきよくて、苦悩を見つめることができないのでしょう。」

しかし、そこで主がハバククに語られるのです。「2:3-4 この幻は、定めの時について証言し、終わりについて告げ、偽ってはいない。もし遅くなっても、それを待て。必ず来る。遅れることはない。4 見よ。彼の心はうぬぼれていて直ぐでない。しかし、正しい人はその信仰によって生きる。」このように、神の正しさ、公正な裁きを信じなさい、その信じていることが義なのだということです。ハバククは、神が正しい裁きをバビロンに対して行われることを知って、主にあって喜びます。このようにして、まだそれが起こっていない時に、神が正しい方であることを知って、賛美するのです。

私たちに、自分たちには理解できないことが起こります。その時に、理解できないところから、理解できるところに立ち戻ることができます。神は公正な方であること。神は、良い方であること。すでに知っていることに立ち戻るのは、すでに知っていることを、知っていないことのために放棄するのは、あまりにも、もったいないです。

2B 必ず報いる方

そして、「**真実です**」とも歌っていますね。それは、主は嘘をつかないということです。主が語られたことは、必ずその通りになるということです。裏切らないということです。私たちは、本当に約束をかなえられるのか、分からないというじれったさがあります。しかし、信仰にはいつも、忍耐と一緒になっています。信じて、忍耐を働かせて待つのです。主は真実な方であることを、ついには知ることになります。

3A 聖なる方

そして、「**あなただけが聖なる方です**」と歌っています。

1B 別たれた方

1C 被造物から

主が聖なる方であるというのは、どういう意味なのでしょう？ 聖いというのは、「別たれている」ということです。主は、万物を造られた方です。主は被造物ではありません。創造主である方が、被造物から別たれているというのが、主の名が聖なるものとなっていることを意味します。一緒にたにされない、混じらないということです。イエスが、私たちに祈れと命じられた主の祈りには、「天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。(マタイ 6:9)」があります。主が、あらゆるものから別たれている方であるようにしなさい、ということです。

そこで主は、ご自身が、他の神々と呼ばれているものと同列にされる時、並べられる時に、それは、御怒りを示されるのです。アッシリアの王センナケリブは、このことを行ったので、アッシリア軍は一夜にして倒れました。自分が、数々の国々を倒し、その神々を倒したから、エルサレムの神も同じだとしたのです。「Ⅱ歴代 32:19 彼らは、人の手のわざである、地上の民の神々について語るのと同じように、エルサレムの神について語ったのである。」

2C 聖別

そして、驚くことですが、聖なる方は、人や物をご自分のものに聖め別つことがあります。聖別します。主が他のものとは別にして、ご自分だけのものにします。

十戒にあることばには、聖別が反映されています。「殺してはならない」とあります。人のいのちを取ってはならないということですね。なぜ、それがいけないのか？ そのいのちは神からものだからです。だから、人のいのちを取ることは、ご自分のものに別けていたものから取っていたこととなります。同じように「姦淫してはならない」は、その人の性については、神のものにされています。その性を、結婚していないのに触れることは、神のものにされたものに触れることとなります。それで、神は御怒りを示されるのです。

同じように、主は、ご自分のものにするためにイスラエルを聖別されました。また異邦人も、キリストにあって聖別されました。驚くべきことです。イスラエルは、聖書で見てのとおり、多くの失敗を繰り返しました。それでもなお、彼らを聖なる民として呼ばれたのです。イスラエルに手を出した国々は、激しく怒られるのです。「ゼカ 2:8 あなたがたを略奪した国々に主の栄光が私を遣わした後、万軍の【主】がこう言われたからだ。『あなたがたに触れる者は、わたしの瞳に触れる者。』」

キリストにあって異邦人の中からも、私たちが聖別されました。使徒たちの手紙を見れば、教会がいろんな問題を持っているが分かります。それなのに、私たちが聖なる国民として召されたことが書かれています。なぜなら、へりくだり、心砕かれ、心貧しくしている者を、主は、先ほど話しておられるように、心に留めておられるからです。この者たちを、主はご自分のものとして聖別してくださったのです。それをあざけり、見下し、あるいは手を出せば、どうなるかは、主が「小さい者」として語られたとおりです。「ルカ 17:2 その者にとっては、これらの小さい者たちの一人をつまずかせより、ひき臼を首に結び付けられて、海に投げ込まれるほうがましです。」

教会は、何でもない者たちの集まりです。「I コリ 1:26-28 兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。27 しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選ばれました。28 有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。」だから突っ込みどころ、満載なのです。しかし、私たちが恵みによって、キリストの流された血によって、聖なる者としてくださいました。「1:30 しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。」

だから、サタンの攻撃的、人々の攻撃的になります。しかし、イスラエルの民をご自分の瞳と呼ばれたように、教会も、小さい者と呼ばれて、イエスはつまずきを与える者たちの首に、ひき臼を結び付けて、海に投げ込まれたほうはましと言われるのです。

2B 聖なる火

1C 異なる火

聖なる方は、しばしば火によって、その聖さを示されます。アロンの息子ナダブとアブフは、「主が命じたものではない異なる火を主に献げた」とあります(10:1)。すると、主は、彼らを、火をもって焼き尽くしました。主が命じられていることに従うこと、みことばにとどまることによって、私たちは守られます。聖なる方がご自分のものを守ってくださいます。火は、私たちに敵対する者を燃え尽くします。けれども、自分を守られる方は、その守ってくださる方の中に留まっていなければ、守ってくれる火が、自分を焼き尽くす火になってしまうのです。護身のために銃を持っていても、銃口を間違っただけで自分のほうに向いていたら、自分を守るための銃で、自分が死んでしまうのと同じです。

2C 不純物や汚れの清め

主が、火をもって獣の国を滅ぼされます。獣の国またバビロンのしていることは、偶像礼拝です。そして、獣は、天におられる方と、そこに住む者たちを冒瀆します。そして聖徒を殺していきます。完全に、創造主である神ご自身のところに、またご自身が聖なる者としたところに、どこどか入り込んでいるのです。そこで主は、火によってご自身とそれらのものを別けるのです。ご自身がご自身のままでいるため、聖なる御名を保つために、またご自身の国を打ち立てるため、獣の国を火の災いによって裁き、獣自身を生きたま燃える火の中に投げ込みます。こうやって、ご自身を聖なる方とし、この地上を、神だけのものにするため火で清めるのです。火は、金や銀の不純物を清めます。それと同じように、汚れから清められるのです。

最後に、今、まだ地上にいる私たちに対して、聖なる方、また公正に裁かれる方をどのように仰ぎ見るか、ペテロが第一の手紙で勧めている箇所があるので、そこを読んで終わりにしたいと思います。1章 13-19 節です。

13 ですから、あなたがたは心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。14 従順な子どもとなり、以前、無知であったときの欲望に従わず、15 むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。16 「あなたがたは聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」と書いてあるからです。17 また、人をそれぞれのわざにしたがって公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、この世に寄留している時を、恐れつつ過ごしなさい。18 ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず 19 傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。